

北海道大学 後期提供科目

一般教育演習（フレッシュマンセミナー）

南紀熊野の自然と 人々の暮らし・初春編

授業概要

北大で唯一、道外にある研究教育施設である和歌山研究林において、数日間の合宿形式で演習を行う。暖温帯に属する熊野地方の初春の自然環境（照葉樹林・人工針葉樹林・古座川流域）と、山村における過去および現在の暮らしを観察・体験し、この地域の自然環境と人の生活の関連性を考える。さらに、北海道の自然や暮らしとの違いを実感する。

到達目標

熊野地方の初春の自然環境と、山村における過去および現在の暮らしの関連性について、実体験に基づいた理解ができるようにする。また、北海道との違いについても具体的に気づけるようにする。さらに、自然を対象とした調査・研究手法も身につける。一連の経験を通じて、自然や地域社会に関する視野を広げる。

成績評価

ガイダンスと演習の受講態度、および課題のプレゼンテーションとレポートが演習目標をよく理解して、要領よく作成されているかを評価の基準とする。

担当教員 *teacher in charge*

中村 誠宏

北方生物圏フィールド科学センター 准教授



2 - 3月の時期に和歌山研究林に滞在し、5日間かけて以下の実習・演習を行う予定（荒天の場合は別メニュー）。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 炭焼作業（備長炭）
- 3 照葉樹林観察
- 4 林業・製材・木工作業
- 5 野外炊飯
- 6 野生動物観察
- 7 古座川流域観察
- 8 特産品加工
- 9 フィールド研究紹介（授業）
- 10 設定された課題に関するプレゼンテーション（グループ作業）
- 11 レポート作成